

ピアサポーター力を活かしたひきこもり支援を考える

ひきこもりの理解促進と連携力向上のための スキルアップ研修会in高知

ハイブリッド
現地・オンライン同時開催予定

1日目

2022
2/SAT
/12

高知県立県民文化ホール
第6多目的室
13:00～17:00

2日目

2022
2/SUN
/13

高知城ホール大会議室
9:30～16:30

参加対象

ひきこもり支援、ピアサポート活動、多機関連携に関心のある方

申込方法

KHJホームページか、右のQRコードより、お申込みください。
申込の方全員が後日視聴(1か月間)可能です。
【申込締切】2月8日(火)



詳しくは **KHJ ひきこもり**
で検索!

参加費

当事者..... 無 料
家族..... 2,000円
支援者・一般..... 5,000円

※参加費のお振込先は裏面を御覧下さい。

※参加費の一部は、ピアサポート事業の費用に充てさせていただきます。
※動画視聴はご自身の研修目的以外には利用できません。
zoom 接続のアドレス及び配布資料はお申込み者の方のみアクセス可能です。
※コロナ感染の状況によっては一部内容に変更が生じることがあります。
あらかじめご了承ください。

経験を糧に 息長く支え合うためにできること

当会は、2013年度から「ひきこもりピアサポーター」養成研修派遣事業を開始し、今年で7年目を迎えました。現在も200名を超えるピアサポーターが、活動に取り組んでいます。痛みや苦しみを自然に分かち合ったり、対等につながり支え合う力は、ピアサポートの強みとなっています。

高知県では全国に先駆けて「高知ひきこもりピアサポートセンター」が開設され、経験者によるひきこもり支援がスタートしました。ひきこもりの背景が多様化しているなか、官民連携で互いの強みを活かした多機関とのつながりが重要になっています。

本研修会では、全国の連携事例を通して、ひきこもり支援の中でピアサポートの役割や意義、連携する上で大切なものは何かを考えます。多機関連携に関心のある方、官民間わず支援に携わる方、ピアサポーター、ご家族ご本人のみなさん、ぜひ参加をお待ちしています。本研修が今後の連携の萌芽となれば幸いです。コロナ禍の現在、オンラインによる参加、視聴も歓迎しています。ふるってご参加ください。

【主催】特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会

【共催】KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会 【後援】高知県 (申請中)

本研修は、社会福祉法人中央共同募金会「当事者会のピアサポート支援事業」の助成金を得て実施されます

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご協力をお願いします)

●必ずマスクを着用のうえ会場ください●受付時に検温、手指の消毒をお願いします●発熱が認められる際は、入場をご遠慮いただく場合がありますのでご了承ください。

研修プログラム

2月12日(第1日目)

●13:00～開会挨拶(KHJ共同代表、厚生労働省、高知県)

●13:30～ピアサポート活動調査報告(KHJ本部事務局)

●14:00～基調講演「ピアサポーターの効果と課題について」

・山崎正雄(高知県立精神保健福祉センター所長
ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会会長)



(山崎正雄氏)

●15:00～シンポジウム

「行政とピアサポーターとの連携に大切なものは何か」

～高知ピアサポートセンターの活動と展望～
・座長:山崎正雄

・シンポジスト(50音順)/佐野飛鳥(高知県ひきこもり地域支援センターひきこもり支援コーディネーター)/坂本 勲(KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会会長)/谷岡 祥子(KHJ高知県親の会「やいろ鳥」の会 副会長)/水田 誠(ひきこもり経験者・KHJ認定ピアサポーター高知ピアサポートセンター事務スタッフ)

〈ピアサポーター連携プロフィール〉

KHJ高知県親の会 やいろ鳥の会

(高知ピアサポートセンター受託団体)

2006年設立。毎月定例の親の会を開催する傍ら、10年以上前から、高知県地域福祉部の支援を受け精神保健福祉センターの部屋を借り、週一回家族サロンを開催している。サロンでは、家族会会員がセンターの相談員の面談を受けたり、センターに相談に来た親を家族会のサロンに繋げたり、官民が協力し合って親のサポートを行っていた。やがて県から居場所づくりの提案があり、いの町に居場所「といる」を開設。以来県と精神保健福祉センターとは緊密に連絡を取り合っている。ひきこもり相談業務の一層の充実のために、2020年4月にピアサポーターによる相談センターとして開設された。

2月13日(第2日目)

〈午前の部〉

●9:30～12:30

各地の多機関連携の事例・実践の紹介

●総合司会:池上正樹

(KHJ全国ひきこもり家族会連合会理事)

ピアサポート活動に役立つ身近な事例も含めて紹介します。



(池上正樹)

①〔北海道〕公設民営の居場所でのピアサポート

(KHJ北海道はまなすの会・NPO法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク)

居場所「よりどころ」は、2018年にNPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークに委託され、札幌市ひきこもり地域支援センターと協同して実施されている。ピアサポーターは、家族会や当事者会での相談や居場所スタッフとして活動。話しても話さなくてもいい。ピアサポーターによる企画が柔軟に取り入れられている。

②〔富山〕相談へのハードルを下げる

(NPO法人はあとぴあ21・KHJはあとぴあ家族会)

2020年7月から富山県の子ども・若者総合相談センターを受託。第一次相談窓口はピアサポーターを配置。開設してから4か月で合計100件余りの相談があった。ピアサポーターが第一次相談窓口を担当することで、相談へのハードルが下がり、さらにコロナ禍の影響で、相談は増えている。本人や家族が負い目を感じることなく、安心して語れ心を休めることのできる居場所づくりにも力を入れている。

③〔高知〕草の根でつながった農福連携

(高知県安芸福祉保健所と高知の農家さん)

安芸市の健康障害課で、作業療法士でもある公文一也さんは、平成26年から農福連携でひきこもり支援を始め、人手の必要な農家と、働きたい本人とをマッチングするコーディネーターだ。本人の得意なものを活かし、働く場所と働く人をつなぎ、社会貢献をしたい人のネットワークを広げている。農福連携に関心のある市町村から本人の体験談の講演依頼も増えている。制度の狭間の人と人をつなぐ取り組みを紹介する。

〈午後の部〉13:30～16:30

●13:30～14:20

ピアサポーター体験発表

「今、ひきこもっている人と家族、支援のみなさんに伝えたいこと」

楠永洋介(ひきこもり経験者、KHJ高知県親の会「やいろ鳥の会」、KHJ認定ピアサポーター、整体指導者)

1986年、高知市生まれ。小中学校を不登校を経験。定時制昼間部高校を卒業後、ニート、ひきこもりを経験。

過去の経験から「自分が自分である為に必要な事」を研究、自らを実験動物として「仮説」と「実践、実験」を重ねて暮らす。現在、農業従事、塾講師、整体師を生業としている

●14:30～16:30

各テーマに別れて対話交流会 対話交流会は、現地参加のみ(予定)

■池上正樹プロフィール

ジャーナリスト。KHJ 全国ひきこもり家族会連合会広報担当理事。20年以上にわたって「ひきこもり」関係の取材を続け、1000人以上の当事者、家族とやりとりを重ねる。著書は「ルポ「8050問題」～高齢親子「ひきこもり死」の現場から」(河出新書)。

参加費はホームページの申込みフォームからお申込み後、下記口座に1週間以内にお振込みください。請求書、領収書発行のご依頼や、振込日が遅れることが予想される場合は、あらかじめ申込フォームの備考欄にお書きください。お振込み後、申込受付完了となります。(申込方法は表面をご覧ください)

【振込先】

paypay銀行 ビジネス営業部(ビジネス)支店
普通口座 2008951

【口座名義人】

特定非営利活動法人 KHJ全国ひきこもり家族会連合会
トクヒケイエイチジェイゼンコクヒキコモリカゾクカイレングウカイ

※コロナ感染拡大の状況により、プログラムの一部が変更になる場合がございます。

お問い合わせ

特定非営利活動法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 KHJ本部事務局

170-0002東京都豊島区巣鴨3-16-12-301 TEL:03-5944-5250 / FAX:03-5944-5290

E-mail: peer@khj-h.com